

主題設定の理由



【社会の要請】  
持続可能な社会の創り手の育成

【子供の実態】

- 17か年に渡るオオゴマダラの飼育観察 → **知識量は豊富**
- 主体的な飼育観察や餌の栽培に課題 → **「当たり前」の存在**

身近な蝶やそれらを取り巻く環境

実感を伴う追究活動

研究主題

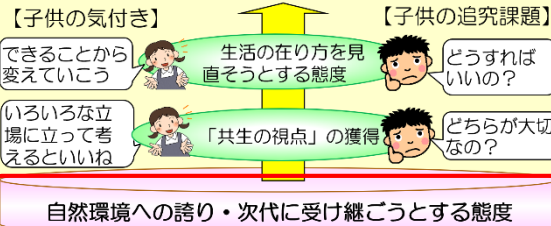
郷土の豊かな自然に誇りを持ち、次代へ受け継いでいこうとする子供の育成  
－オオゴマダラを中心とした蝶の生態調査と飼育観察活動を通して－

研究の構想

下の図中の □ が、本研究（1・2年目の研究）の内容です。

資質・能力

持続可能な社会の創り手になるための素地



自然との共生・生活の在り方を見直す子供

5・6年目 奄美の蝶 奄美の蝶を取り巻く自然環境

3・4年目 佐仁集落の蝶 佐仁集落の蝶を取り巻く自然環境

郷土の自然に誇り・次代へ受け継ぐ子供

1・2年目 オオゴマダラ・在来種の蝶

学校の蝶を取り巻く自然環境

子供の追究内容と対象

【子供が持続可能な社会の創り手となるための段階】

【目指す子供像に迫るための6か年計画】

研究の柱と手立て

柱1 主体的に自然環境から学ばせる

- 1 地域人材との連携
- 2 「蝶タイム」の設定
- 3 オオゴマダラコーナーの設置
- 4 総合的な学習の時間における飼育観察（追究対象に応じた班編成）
- 5 「貴重な動画集」の作成と活用

柱2 主体的に自然環境にかかわらせ、働き掛けさせる

- 1 「一人一〇〇運動」
- 2 総合的な学習の時間における追究活動
- 3 生活科における追究活動
- 4 積極的な情報発信



「蝶タイム」の様子



B班の活動の様子



一人一〇〇ウイカガミ運動



「食草看板」の設置

本校 HP「オオゴマダラの部屋」で情報発信中です。



公開研究会の様子

59人の先生方の御参加をいただきました。

参加された先生方より



【開会行事(開会のあいさつ)】



【研究発表】



【子供の成果発表(A班)】



【子供の成果発表(B班)】



【食草案内フィールドワーク】



【研究協議】



【指導・助言】



【指導講話】

- 何をもちて環境教育とするのか、様々な考えがある中、「郷土への誇り、次代へ受け継ぐ」は、とても明確で分かりやすく、勉強になりました（小学校）。
- 6か年計画を立て、段階的に力を付けさせるところがとても参考になりました（小学校）。
- 身近な素材を使って、環境教育から「共生の視点」まで考える多角的な視点が新鮮でした。今の社会に求められている視点だと思いました（中学校）。
- 子供たちが、ただ単に蝶を飼育するのではなく、環境教育を通して、主体的に学ぶ力が構築されていました。生き生きとしている姿が印象的でした（高等学校）。
- 情報活用能力、表現力、発信力が養われたことが伝わりました。体育館の中では緊張していた子供たちが、校庭に出て生き生きと案内する姿が印象的でした（小学校）。
- 飼育・栽培を行う中で多くの失敗が、子供の考えを深めることにつながったことが分かりました（小学校）。
- どの子供も堂々と発表して立派でした。フィールドでの案内も、はきはきしていてよかったです（中学校）。
- 子供たちの成果発表は、体育館内だけでなく、フィールドワークも取り入れていて、有意義でした（高等学校）。
- 場面を設定した研究協議は多くの視点や気づきを与えてくれました。他校種の先生方とも意見交流ができて有意義でした（高等学校）。
- 子供たちの成果の発表では、スライドだけでなく、体育館後方に掲示してあった子供たちの作品なども提示するとよかったのではないのでしょうか（小学校）。